

教育目標		やさしく かしこく すこやかに——命を大切に・人を大切に・物を大切に——						
重点目標		(1) 基本的人権が尊重される教育の推進 (2) 一人ひとりのニーズを把握し、適切な教育支援を行う「特別支援教育」の推進 (3) わかる授業の創造による、生きてはたらく学力の育成 (4) 心ふれあう仲間づくり (5) 基本的な生活習慣を身につけさせる (6) 心を育てる美しい環境づくり (7) 命を守る安全教育の推進 (8) 健やかな体づくり						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
基礎・基本の徹底と、授業改善	・基礎的、基本的な知識・技能を習得させる。  ・個々の教師の資質を向上させる。	・基礎・基本的な力を定着させるための授業作りをする。また、単元ごとのテストから児童の苦手なところを把握して個別指導で補う。  ・週4回、5～10分間の朝学習を活用し、反復練習を繰り返し行い、徹底する。漢字と計算練習を中心に行う。  ・兵庫型教科担任制や新学習システム、チームティーチングを活用することによって、きめ細やかな個に応じた指導をする。	・単元テストの計算分野の正答率が80パーセント以上になる。  ・朝学習の時間、児童が集中して学習に取り組める。 ・漢字10問テストの正答率が90%以上になる。	A	・全学年で基礎・基本的な力を定着させる授業作りを行なった。また、単元テストの正答率は国語86%、算数86%であった。  ・漢字や計算などの基礎学力向上を意識し、反復練習しながら、各クラスに合わせた朝学習を実施した。漢字テストの正答率は88%であった。計算テストの正答率は86%であった。  ・兵庫型教科担任制により、学級担任の意識として、自分のクラスだけでなく、学年をまとまりとしてみる意識が強くなった。児童にとっても、担任だけでなく、様々な先生と関わることができてよかった。	・今後も基礎学力の向上をめざし、授業作りをしていく。習熟しにくい子どもたちには、授業中個別に関わり、児童に合った指導をしていく。  ・今後も朝学習で反復練習を繰り返し行い、力を定着させていく。  ・朝の学習タイムで計算や漢字の基礎・基本の積み上げで定着をはかる。	・反復練習が基礎基本の定着に効果を上げており、教員や児童の努力が感じられる。反復練習に意欲的に取り組むことができ、子どもたちが効果を実感できるしなげを工夫してほしい。  ・すべての教員が年1回の公開授業を行う取り組みは今後も継続してほしい。教員同士の学び合いを増やし、個々の授業力を高めてほしい。	
	学力の向上	・思考力・判断力・表現力を育てる授業を展開する。  ・書く活動を充実させ表現力の育成を図る。  ・読書活動を充実させ読書力の習得を図る。	・自分の考えを自身の言葉で伝えたり、友だちの考えを聞いて考えをまとめたりする活動を授業に取り入れる。  ・話し合い活動やペア学習などの児童同士の関わりを活用して、伝え合う力の向上を図る。  ・授業の中で、自分の考えをノートやワークシートに書いたり、要約文や感想文を書いたりする活動を取り入れることで、表現力の育成を図る。	・学習課題に対して、児童が自分の考えをもち、それを友だちに伝えることができる。  ・単元テストの記述問題で自分の考えを書いている児童が90%以上になる。	A	・学年に応じて取り組み方を工夫し、効果的な場面では話し合い活動やペア学習を取り入れた授業づくりをすることができた。また、聞く力の育成に取り組み、全学年で聞き方名人の掲示を張り、学習の中で生かした。  ・単元テストの記述問題では、92%の児童が自分の考えを書くことができていた。記述はできているものの、内容に関しては不十分などところもある。	・児童個人の学習を保障したうえで、児童同士の関わり合いを今後も取り入れる。有効であった話し合いの手法については研修会などで共有し、話し合い活動やペア学習の時間をより充実したものにしていく。  ・テストでは形式に沿った記述が求められるので、授業で質問にあった書き方なども指導していく。 ・授業のノートやワークシートには児童全員が必ず書けるように指導していく。	・話し合い活動やペア学習などが、理解を深めたり、思考力を高めるのに効果があると考えられる。  ・授業の最後のまとめなどで、自分の考えを書くことが思考力や表現力を高めることにつながっている。  ・学んだことや考えたことをアウトプット(話す・書く)する活動を充実させることが重要である。  ・わからないことをはっきり言えない子どもが多いのではないかと、黙っている子の中にわかっていない子がいることを忘れてほしくない。
		・読書活動を充実させ読書力の習得を図る。	・週1回の図書時間、業間での本の貸し出しや、児童や教師の読み聞かせを行うことで読書意欲の向上を図り、一人一人の読書量が増えるようにする。	・1ヶ月の読書目標数平均8冊を達成する。	・読書量の5月～1月の一人当たりの平均は月9.6冊であった。スタンプリーやチャレンジ読書、先生の紹介など様々な読書活動を実施した。	・来年度も読書週間などの機会を活かし、児童の意欲を向上させる読書の啓発活動を続けていく。	・子どもの読書量が、一人当たり平均が月9.6冊というの多いと思う。すべての子どもが本に親しめるよう、図書時間の充実を期待する。	
学習意欲の向上	・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。  ・学習習慣の定着を図る。	・各教科の単元指導で、電子黒板、実物投影機等のICT機器を効果的に活用し、学習意欲の向上を図る。  ・学習のめあてを明確にすることで、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。  ・学習のふりかえりをする中で、一人一人が学習内容の理解を深められるようにする。	・児童アンケートにおいて「授業はわかりやすい」の肯定的回答率が90%以上になる。  ・児童アンケートの「先生は教える方をいろいろと工夫している」で肯定的評価が85%以上になる。  ・児童アンケートの「家庭学習(宿題を含めて)を低学年30分・中学年60分・高学年90分以上している」の肯定的評価が80%以上になる。 ・児童アンケートの「宿題を提出している」の肯定的評価が95%以上になる。	B	・児童アンケートの「授業はわかりやすい」の肯定的意見は94%であった。 ・教職員アンケートの「ICT機器を効果的に取り入れている」では肯定評価が77%であった。 ・教師間で活用方法を共有し、効果的なICT機器の使用について研修を行った。  ・めあてを明示してから学習に取り組むことは、全学年で実施できた。 ・児童アンケートの「先生は教える方をいろいろと工夫している」では肯定評価は95%であった。  ・学習のふりかえりは、授業の時間が足りずできないこともあったが、おおむねできている。	・今後も「分かりやすい授業」を展開していくための授業研究を継続していく。また、ICT機器の効果的な活用方法についても研究を深めていく。  ・学習のめあてを明確にしたり、学習のふりかえりをしたりすることは、見通しをもって主体的に学習活動に参加させるうえで、有効な手立てなので今後も継続していく。	・わかりやすい授業を工夫してくれている。  ・学習意欲を向上させるため、理科や社会などでは、興味・関心を高め、学ぶことの楽しさを教えてほしい。  ・宿題と自主学習に取り組み家庭学習の習慣をつけたい。	

豊かな心・健やかな体	不登校児童への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校の未然防止を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>欠席連絡のない児童については、始業前後に家庭に連絡を取り、連絡のつかない場合は担任、児童支援教員やその他の教員と連携して必要に応じて家庭訪問を行う。</li> <li>ケース会議を開き、個に応じた対策を検討する。(別室登校、担任が登校前に家庭訪問する等)</li> <li>いじめアンケートをとり、いじめが原因の不登校を未然防止、早期発見する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>病欠者を除き、欠席日数が年間30日以上の子を1パーセント以下にする。</li> <li>保護者アンケートの「子どもは楽しく学校に通っている」、児童アンケートの「学校は楽しい」の肯定的回答が90%以上になる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当児童は1%未満であった。</li> <li>朝の上靴チェックでの欠席調べや来ていない児童への電話連絡・家庭訪問等、一定の成果があった。</li> <li>いじめアンケートの実施により、未然防止、早期発見につながり、いじめが原因の不登校児童はいない。</li> <li>連絡なしの遅刻が多い。</li> <li>不登校児童等が出たときの体勢作りをすることは、担任だけでは難しいことを共通理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻しないように、担任が児童への働きかけや保護者への働きかけを行う。</li> <li>個に応じた対応やいじめアンケートの実施により、問題を早期発見したり不登校の未然防止をしたりすることができた。引き続き次年度も迅速な取り組みを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の児童の様子を丁寧にみていくことが大切である。アンケートや聞き取りは、今後も定期的に行い、担任だけでなく、それ以外の先生が聞き取ることも必要である。</li> <li>家庭環境が原因の場合もある。未然防止のためには家庭への働きかけが大切ではないか。</li> <li>問題を把握した時には、今後も初期段階から組織的な取り組みをしてほしい。</li> </ul>
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育委員会児童主催の外遊びや啓発運動や運動大会を実施する。</li> <li>授業などで活用できる「運動カード」を各学年の学習内容に応じて作成し、配布する。</li> <li>体育大会に向けてリレー練習ができるように練習時間を設けたり、練習ゾーンを設置したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全児童の外遊びの機会を増やすことを目指し、外遊びの計画実施や長縄大会・ドッジボール大会を実施する。</li> <li>授業で「運動カード」を活用し、授業や業間休みを通じて学習内容を深めようとする。</li> <li>職員に周知し、多くのクラスが活用できるようにする。児童が自主的・主体的に取り組もうとする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育委員会児童が低学年を対象に外遊びを企画実施した。おにごっこなど親しみやすい活動が行えた。長縄大会に向けて、各クラスで練習に取り組んでいた。</li> <li>授業や業間休みに、「運動カード」に沿って、なわとびや鉄棒などをやってみようとする児童が増えた。ただし、活動内容の検討は必要である。</li> <li>体育大会が近づくにつれて、朝の時間や業間休みにトラックやバトンゾーンを活用するクラスが増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低学年の学級担任と連携し、活動内容や時期を検討し、実施していくことが必要である。長縄大会は、学年ごとの実施だけでなく、全校生が実施する場を設けることも検討する。</li> <li>「運動カード」の内容を学年で検討し、次年度に引き継いでいくことで、内容を精選させていく。縄跳び記録会など発表の場を設けることで児童の意欲につなげる。</li> <li>走ることを通じて、体力の向上が図られるように、今後もリレーの練習を活性化していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長縄大会やドッジボール大会などの取り組みは子どもが体を動かす機会になっている。</li> <li>運動が苦手な子どもが、外に出て運動に親しむ働きかけをお願いしたい。</li> <li>「運動カード」などは、子どもが興味を持って意欲的に取り組むことができる効果的なツールである。一層の工夫をきたい。</li> <li>体力の向上は、食育なども含めた体づくりと一緒に考える必要がある。</li> </ul>
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に学校情報を発信する。</li> <li>授業参観やオープンスクール・仲間作り集会の参観を実施し、保護者や地域の方に授業の様子を公開する。</li> <li>学校運営協議会開催時には授業参観を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校ホームページを週1回更新し、学校情報を積極的に発信する。更新は計画表を作成し、見直しをもって行う。</li> <li>学校だよりを月2回程度を目標に発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校ホームページを週1回以上更新する。</li> <li>保護者アンケートの「学校は教育方針や行事、活動などの様子を学校通信やホームページ等を通じて保護者に伝えている」の肯定的回答が90%以上になる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年平均、週に3～5回ペースで更新している。</li> <li>保護者アンケートの肯定的な意見は96%であった。</li> <li>学校運営協議会委員に人権教育の授業を参観していただいたり、音楽会を鑑賞していただいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の授業や行事の様子を発信することができていたのので、来年度も継続して取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページで授業をはじめとした学校の様子がよくわかる。引き続き、積極的な情報発信をお願いしたい。</li> <li>大変だとは思いますが、保護者や地域の人が学校に来る機会を積極的ににつくってほしい。</li> </ul>

**学校関係者評価総括**

- ・ 摂陽小学校はとてもよい学校だと思う。先生方の努力に感謝したい。
- ・ 基礎学力の向上、仲間を大切する心をはぐくむ教育の充実に、一層取り組んでいただくことを期待したい。
- ・ 純粋で素直な子どもたちの良さを生かしながら、たくましくしなやかに生きていく力を高めて中学校へ送り出してやってほしいと思う。
- ・ 先生方にもやりがいや達成感を感じてもらえるような教育の場になるよう、学校運営協議会としてもしっかりサポートしていきたい。

**次年度に向けた重点的な改善点**

- ・ 教員の授業力向上、授業改善のため、校内研究と研修の充実に学校全体として取り組んでいく。
- ・ 支持的な風土のある学級づくりや仲間づくり集会の取り組みを充実し、人を大切にする心を育てていく。
- ・ 学校と学校運営協議会との有機的な連携を図りながら、本校の教育課題に取り組んでいく。

自己評価の基準 A：目標を上回った B：目標どおりに達成できた C：目標をやや下回った D：目標を大きく下回った